球磨川水系緊急治水対策プロジェクト

- １０年プロジェクト
- 令和２年７月豪雨対応
- 流域のあらゆる関係者が協働し、まちづくりと連携した治水対策

球磨川水系 緊急治水対策プロジェクト
～流域のあらゆる関係者が協働し、まちづくりと連携した治水対策の推進～

○ 令和２年７月豪雨により甚大な被害が発生したことを踏まえ、球磨川においては、国、県、市町村等が連携し、被災した箇所で、河道掘削、堤防整備、輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地等の取り組みを集中的に実施することにより、令和２年７月豪雨と同規模の洪水に対して、越水による氾濫防止※（人吉市の区間等）、家屋の浸水防止※（中流部）など、流域における浸水被害の軽減を図る。

※従来から検討してきた貯留型ダム並びに再開発後の市房ダムによる洪水調節の効果を含む

○ 令和３年出水期に向けて、浸水被害箇所等の堆積土砂の撤去やタイムラインの改善等を緊急的に実施する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○河川区域での対策
- 河道掘削、堤防整備、輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地、放水路（御溝川）等

  全体事業費　約１，５４０億円
  事業期間　　令和２年度～令和１１年度

- 新たな流水型ダム、市房ダム再開発

  調査・検討に令和３年度から本格着手

- 利水ダム等６ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等

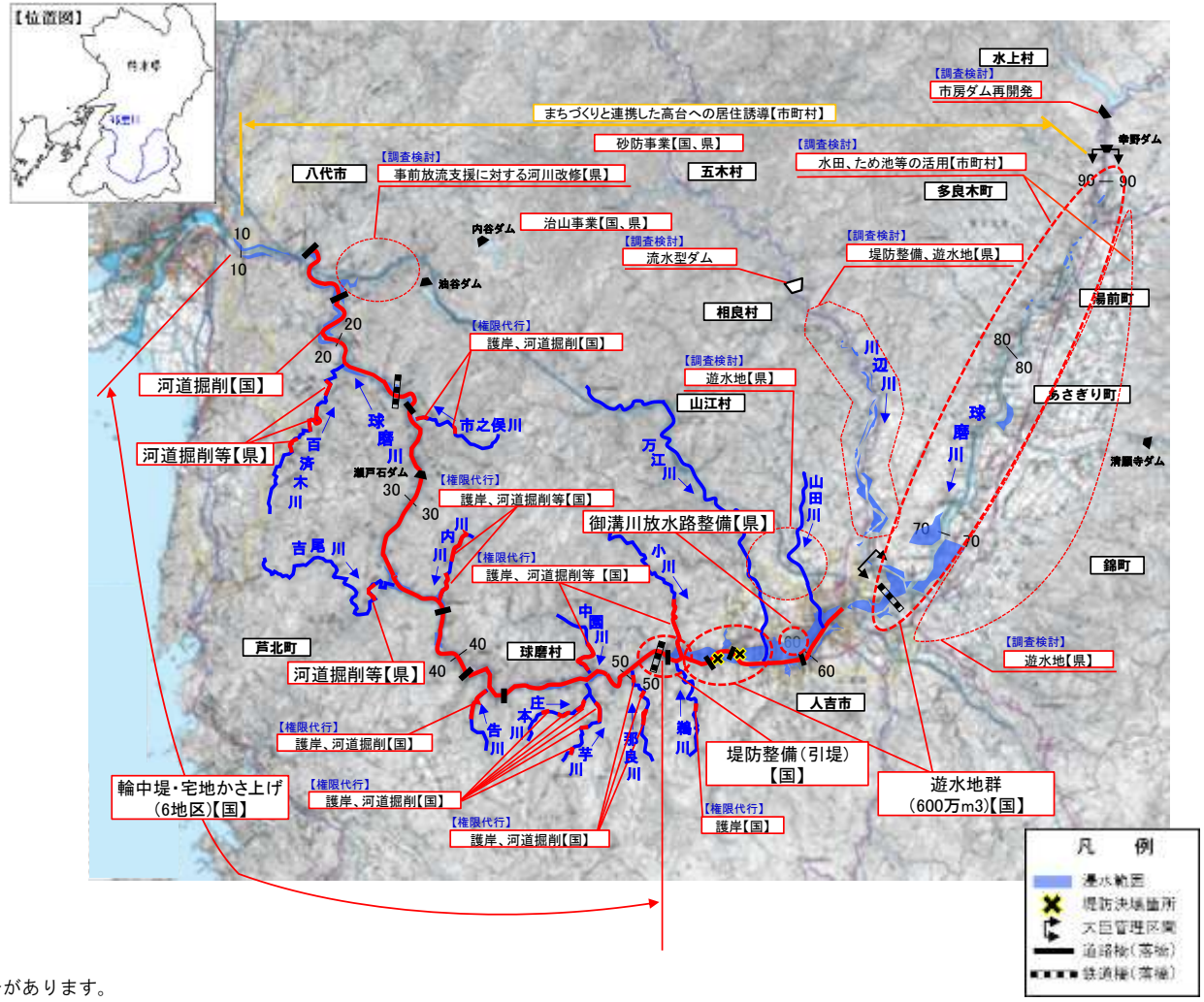
○集水域での対策
- 水田、ため池等の活用
- 下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- 森林の整備・保全
- 土砂や流木の流出抑制対策（砂防、治山）　等

■被害対象を減少させるための対策

○氾濫域での対策
- まちづくりと連携した高台への居住誘導
- 土地利用規制・誘導（災害危険区域等）・移転促進
- 不動産取引時の水害リスク情報提供
- 二線堤、自然堤防の保全
- 排水門等の整備や排水機場等の耐水化　等

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

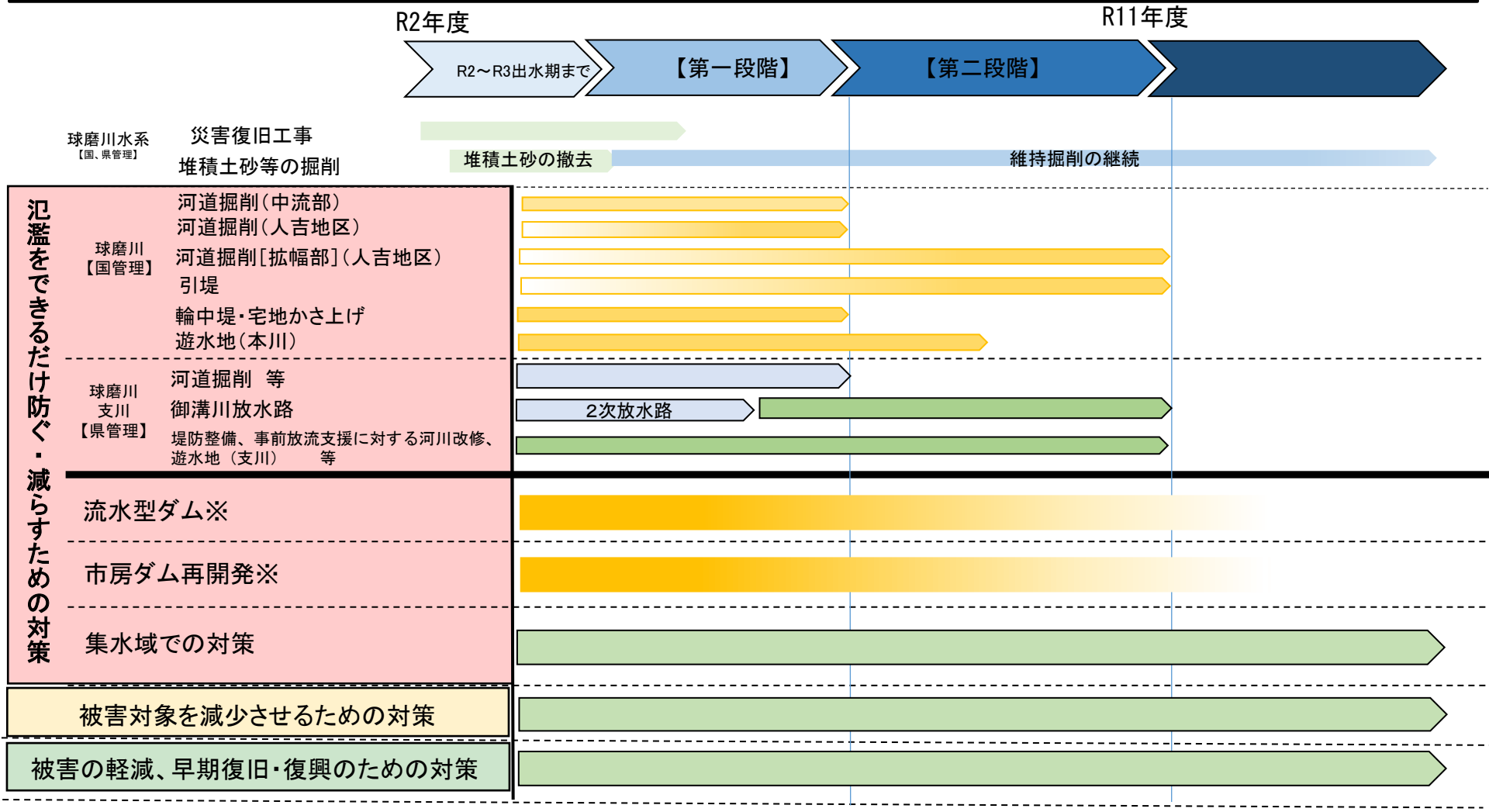
○氾濫域での対策
- R2.7豪雨の課題を受けたタイムラインの改善
- 講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
- ネットワーク回線の二重化
- WEB版のハザードマップ作成
- 庁舎等の浸水対策の実施
- 水防備蓄倉庫の拡充　等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

球磨川水系緊急治水対策プロジェクトメニューの実施計画

【令和3年度出水期まで】可能な限りの堆積土砂の撤去及び堤防決壊箇所の本復旧を実施する
【第一段階】堆積土砂の撤去、災害復旧工事を進めるとともに上下流バランスを考慮の上、河道掘削を最大限実施し進捗を図る。輪中堤・宅地かさ上げをまちづくり等と連携して完成させる。また、遊水地、引堤等に必要な用地確保に着手。県区間においては放水路整備や河道掘削等を推進。流水型ダム、市房ダム再開発の調査・検討に着手し進捗を図る。
【第二段階】早期に遊水地（本川）を完成。河道掘削[拡幅部]（人吉地区）、引堤、県区間堤防整備、遊水地（支川）等の完成。引き続き流水型ダム、市房ダム再開発の進捗を図る。



※調査・検討の結果を踏まえて、事業期間等を決定

「河川区域での対策」実施による効果について（八代市坂本地区19k200付近）

- ：現況（対策実施前水位）
- ：①第一段階完了時点（掘削及び輪中堤・宅地かさ上げまで完了とした時点）
- ：②第二段階途中時点（遊水地まで完了とした時点）
- ：③第二段階完了時点（人吉地区の河道掘削（拡幅部）、引堤まで完了とした時点）
- ：④緊急治水対策プロジェクト完了時点

＜令和2年7洪水（実績）：人吉地点ピーク流量約7,400m3/s）＞

【水位低減効果の算定条件】
・現況（対策実施前）の計算水位と各対策時点の計算水位の差を痕跡水位からの効果として図示。
・水理計算に用いた河道は、「平成28年度～令和元年度」の測量成果をもとにしている。

※視覚的な理解を助けるため、水位差を表すための基準高（堤防高）を●で示し、それ以下を黒破線で示している。

河川区域での対策効果イメージ（八代市坂本町荒瀬地区）

※　本資料の計算水位は一定の与条件による「暫定値」であるため、今後変更の可能性がある。

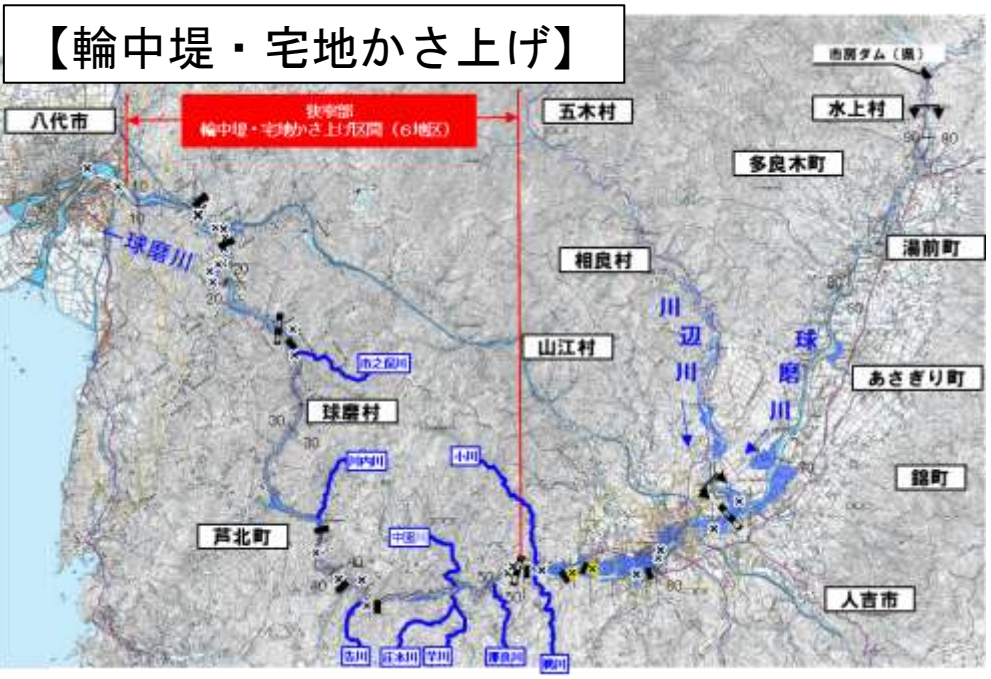
緊急治水対策プロジェクト（輪中堤･宅地かさ上げ） 箇所図

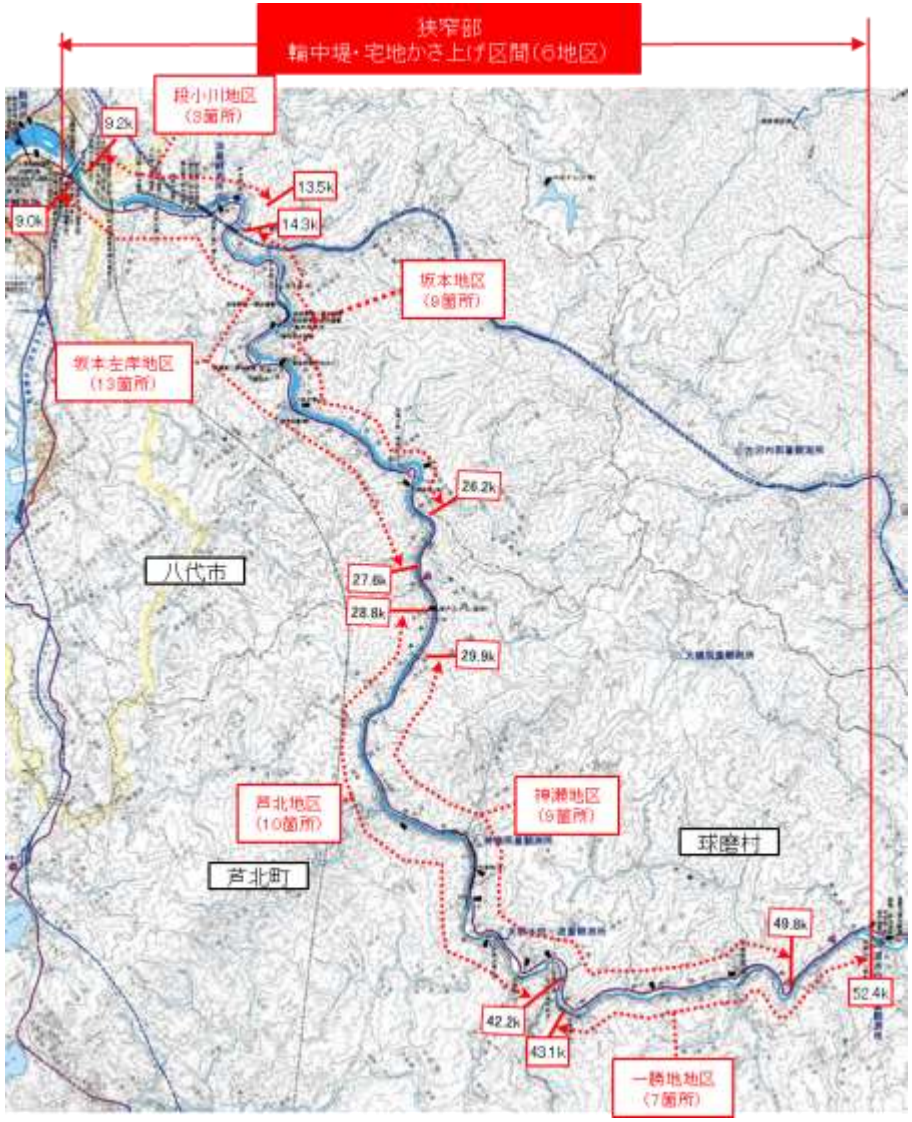
〇治水対策実施後の水位（計画高水位＋余裕高相当）を目標として実施する計画とする。必要に応じて自治体のまちづくりと連携した宅地かさ上げを実施する。

河川事業としてのかさ上げ対象戸数

対象区間にある家屋のうち、治水対策実施後の水位以下にある家屋相当の数

【輪中堤・宅地かさ上げ】





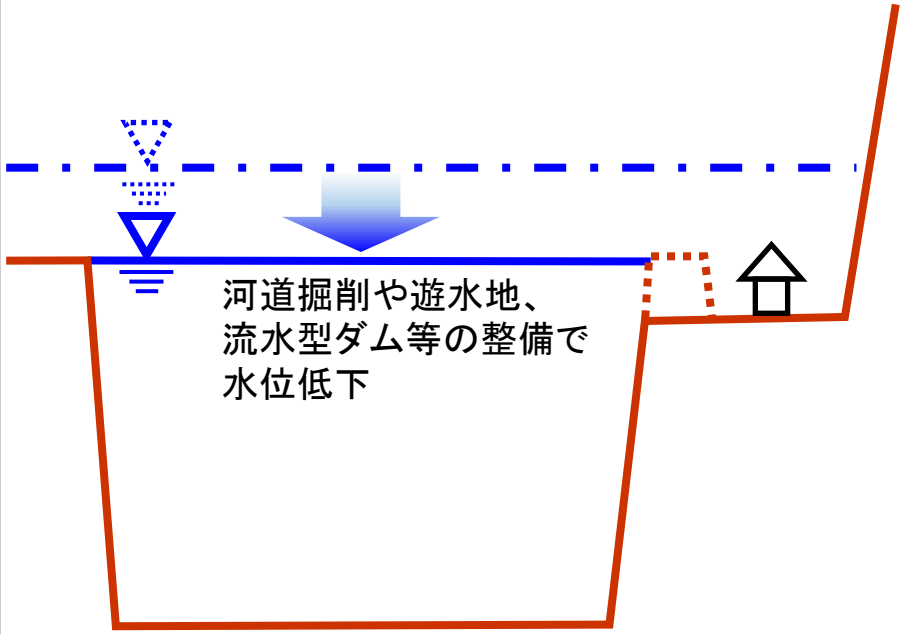
※緊急治水対策プロジェクト策定時点での予定箇所であり、変更の可能性があります。

緊急治水対策プロジェクト （輪中堤・宅地かさ上げ）の考え方

〇中流部の川沿いのわずかな平地を利用して形成された集落等について、令和2年7月洪水と同規模の洪水に対して家屋の浸水被害を防止するため、河川事業による輪中堤・宅地かさ上げを実施。必要に応じて自治体のまちづくり等と連携した更なる宅地かさ上げ等を実施する。

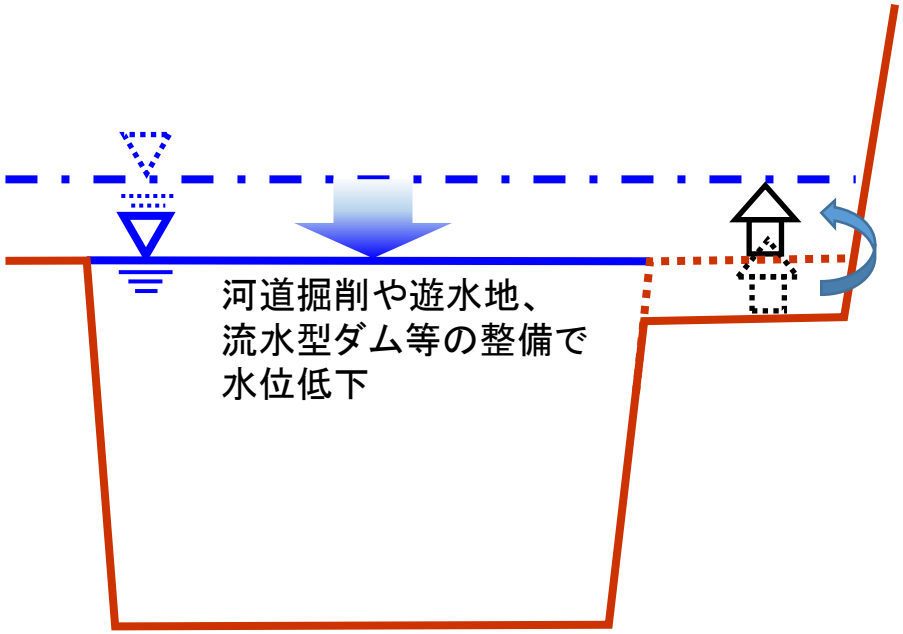
輪中堤イメージ

ある特定の区域（家屋）を洪水の氾濫から防御するためその周囲を堤防で囲む



宅地かさ上げイメージ

対策後水位よりも低い家屋等を対策後水位までかさ上げ



○皆さまの再建意向判断の参考にしていただきたく、対策後水位と地盤高さとの差を現地写真へ表現したものです。
○厳密に事業実施の高さ等を示したものではありません。

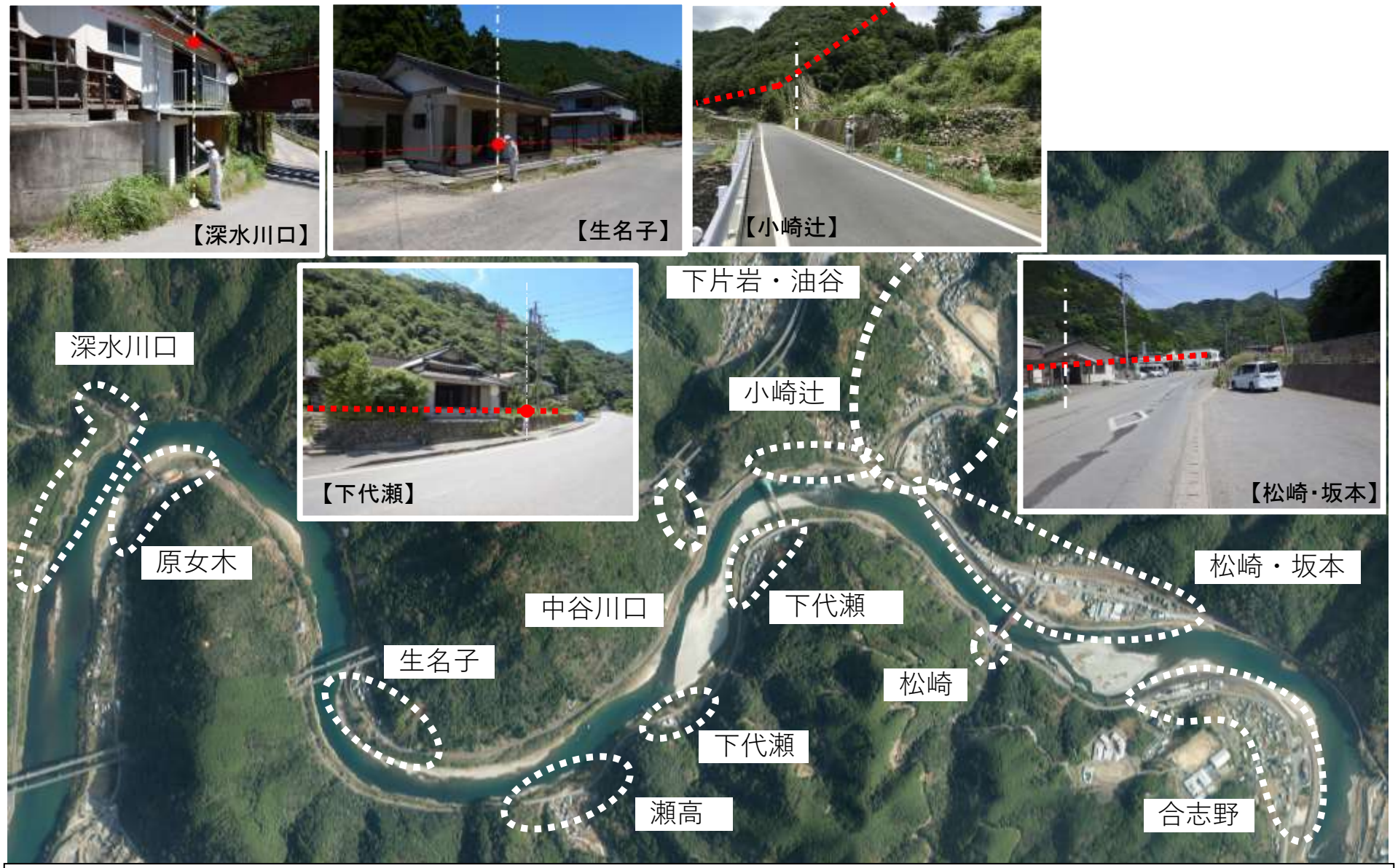
○皆さまの再建意向判断の参考にしていただきたく、対策後水位と地盤高さとの差を現地写真へ表現したものです。
○厳密に事業実施の高さ等を示したものではありません。

【原女木】

【瀬高】

【下代瀬】

【合志野】

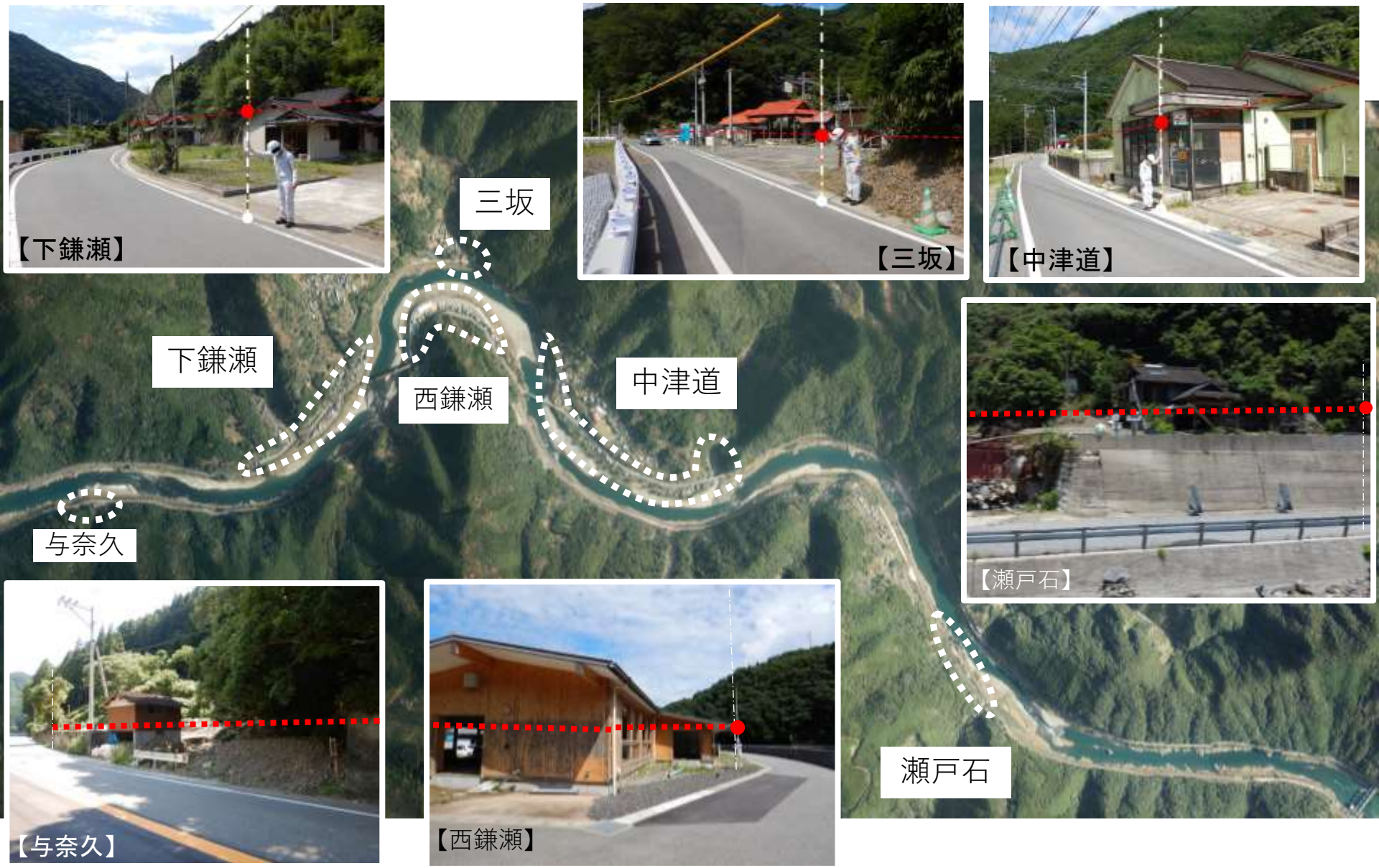


○皆さまの再建意向判断の参考にしていただきたく、対策後水位と地盤高さとの差を現地写真へ表現したものです。

○厳密に事業実施の高さ等を示したものではありません。

○皆さまの再建意向判断の参考にしていただきたく、対策後水位と地盤高さとの差を現地写真へ表現したものです。

○厳密に事業実施の高さ等を示したものではありません。



○皆さまの再建意向判断の参考にしていただきたく、対策後水位と地盤高さとの差を現地写真へ表現したものです。
○厳密に事業実施の高さ等を示したものではありません。

輪中堤・宅地かさ上げ事業の目的

氾濫の危険性がある集落等に住む人の生命や家屋等の財産を守り、継続してその地区に安心して住めるようにすることを目的としています。

従いまして、従前の居住地で再建する意向のある地区について、輪中堤・宅地かさ上げ事業を行います。

また、同様に地区内に再建する意向のある家屋等が、事業の対象家屋となりますのでご理解いただきますようお願いします。